

文化庁「全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」

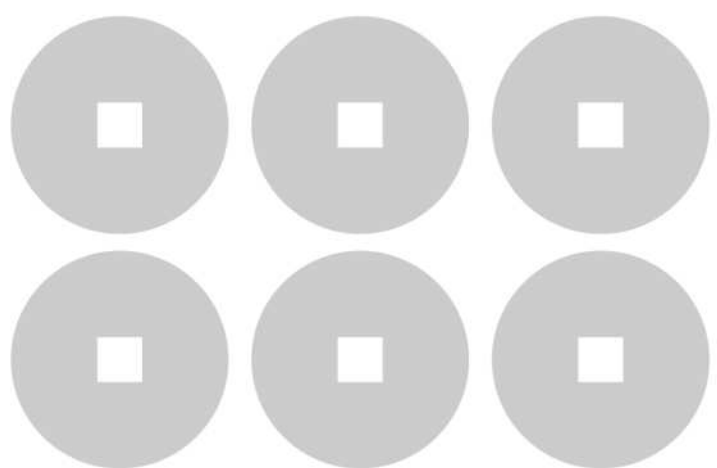
松代真田家 400 年の歴史コンテンツ造成事業

【コンテンツ概要説明】



真田邸(国指定史跡)

事業主体 松代真田の文化財活用推進協議会



はじめに

長野市の松代地区は、江戸時代に真田家が治めた十万石の城下町です。

真田家の居城があった松代城跡をはじめ、武家文化を伝える建造物が多く残っており、歴史的な町並みを感じることができます。

近年、市内の外国人旅行者が増加し、松代地区も増加傾向にありますが、真田邸や文武学校など、その歴史的・文化的価値を十分に伝えることが出来ておりません。

そこで今回、「松代真田の文化財活用推進協議会」を立ち上げ、文化庁の補助事業を活用し、知的好奇心をもったインバウンド客（モダンラグジュアリー層）をターゲットに、文化財の本質的価値を伝えることができる高付加価値化の英語ガイドツアーの造成や、19世紀の文献を参考に松代藩主などがハレの日に食べていた「殿様御膳」の開発を行い、コンテンツを造成しました。

松代真田の文化財活用推進協議会構成団体

長野市／信州松代観光協会／長野商工会議所松代支部／（公財）ながの観光コンベンションビューロー

松代真田家のあらまし

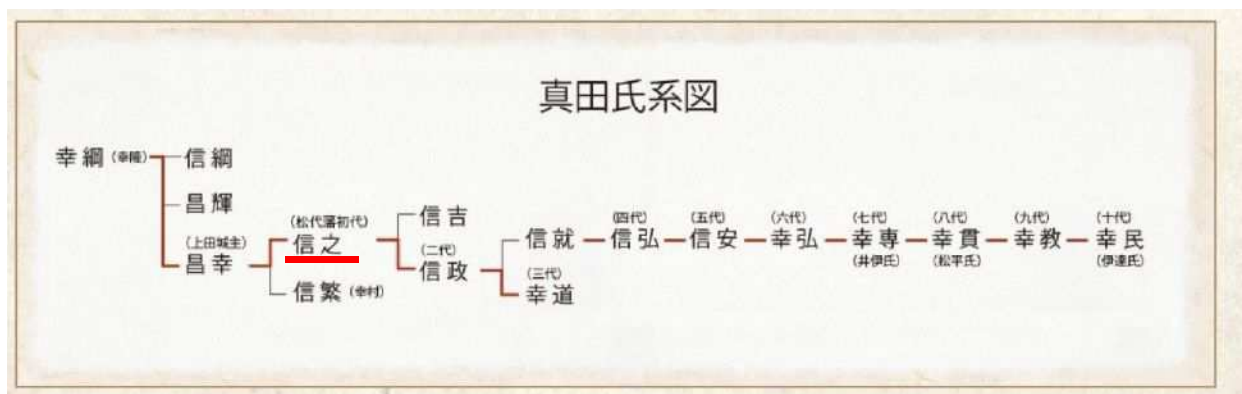
松代藩初代藩主真田信之は、父に昌幸、弟に信繁（幸村）がいます。

昌幸と信繁（幸村）は、徳川家と豊臣家の戦いで豊臣方につき、信繁は、大坂冬の陣、夏の陣で戦い討ち死にしました。

信之は、父、弟と別れて、徳川方につき、その功によって父・昌幸が築いた上田城とその領地を受け継ぎました。

その後、松代十万石、上州沼田三万石を与えられ、沼田の真田家は、江戸時代中頃、改易（領地没収）となりましたが、松代の真田家は、廃藩に至るまで 250 年間、10 代の藩主が北信濃四郡（長野県北部）を支配しました。

信之や歴代藩主は、町づくりや産業振興に力を尽くす一方、質素儉約を励行するとともに文武を奨励し、風情と落ち着きのある現在の城下町・松代の礎を築きました。



開発した主なコンテンツ

■ 殿様御膳（プレミアムディナー）

- ✓ 文献から松代藩藩主などがハレの日などに食べていた御膳を再現。
- ✓ 普段は飲食ができない真田邸でプレミアムディナーとして提供。
- ✓ 春季と秋季の2つの献立を開発。

【おことわり】

プレミアムディナーは、春季及び秋季を想定しています。

殿様御膳のお品の中には、一部、殿様以外の者が食していた献立もございます。

文献には調理方法が記載されておりませんので、現代風にアレンジしています。



一の膳



二の膳

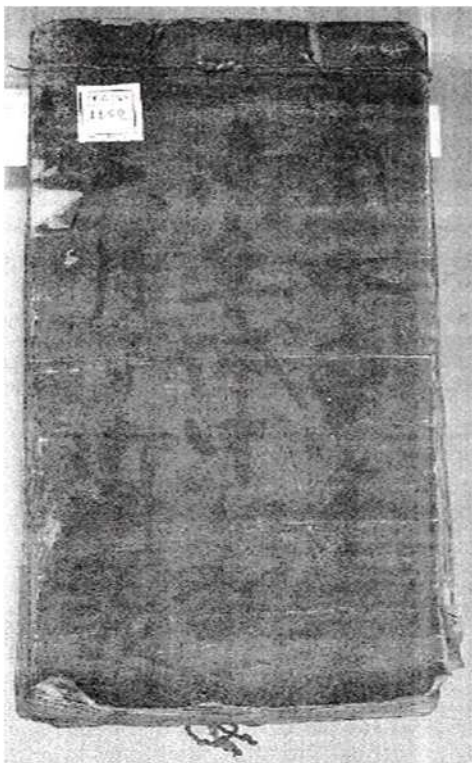


三の膳・惣菓子

【メニュー内容（一部）】

- | | | | |
|-----|------|-----|------|
| 一の膳 | 肥煮鮑 | 鯛昆布 | 味噌漬鮭 |
| 二の膳 | 焼玉子 | 松茸 | 酢きぬた |
| 三の膳 | 伊勢海老 | 数の子 | あら子 |
| 惣菓子 | やうかん | 大落雁 | |

殿様御膳は、こちらの史料を参考に創作いたしました。



嘉永七寅年
御在城中日記
六月ヨリ
御料理所

ございじょうちゅうにつき
御在城中日記

— 嘉永7年（安政元年・1854）6月～安政2年（1855）5月 —

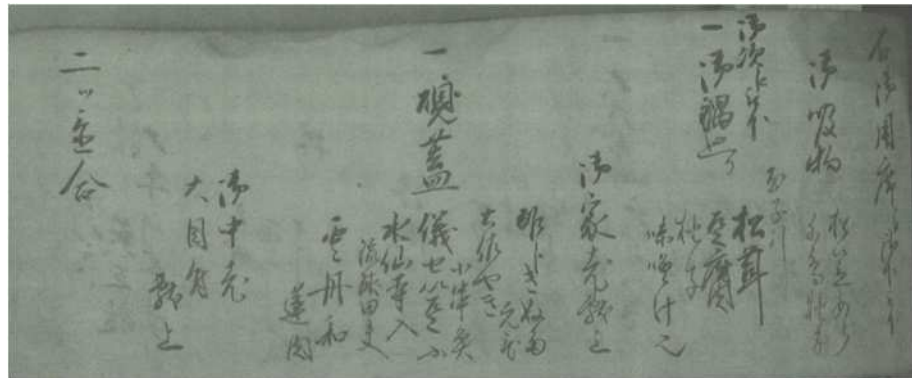
真田家9代藩主 真田幸教が、松代初入国の際、作成された献立記録。

藩主の「平常の献立」や「ハレの日の献立」、「家臣への被下物」が記されており、儀式に伴う飲食の様子や藩主の好みなどが分かる。

なお本日の御料理は、「ハレの日の献立」の中から抜粋し、創作しています。

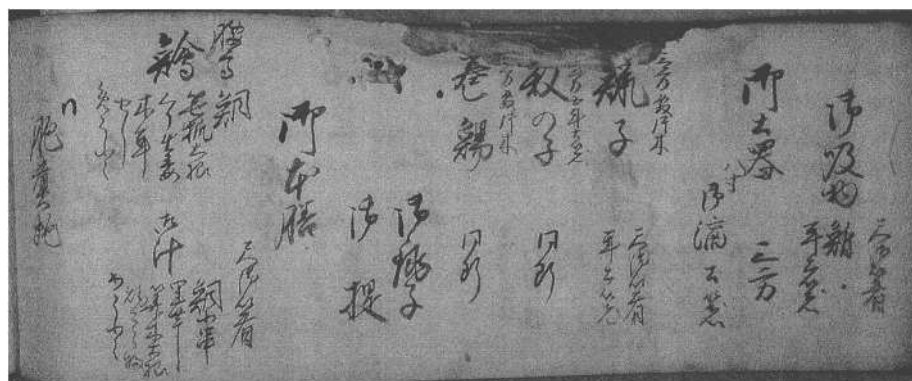
・お月見の宴 ・正月元旦 ・善光寺大勧進への振る舞い宴 ・誕生日祝

御在城中日記（一部）



右御用席江御下被下	御吸物	松笠あら	千鳥柚子	御次江被下	玉子引	松茸	豆腐	柚子	味噌汁也	一御鍋廻り	御家老献上	酢きぬた	えひ	土佐やき	小串魚	儀せい豆心	水仙寺入	琉球田夫	雲丹和	蓮肉	御中元	大目付	献上	二ッ置合
-----------	-----	------	------	-------	-----	----	----	----	------	-------	-------	------	----	------	-----	-------	------	------	-----	----	-----	-----	----	------

嘉永7年（1854）8月15日「お月見の宴」の献立



御吸物	鯛	平土器	尺御箸	御土器	八寸	御滴土器	三方	三方敷片木	鯛子	三方五斗土器	数の子	三方敷片木	巻鯛	御本膳	鯛	笹爪土根	木耳	せり	めうと	同	肥煮鰻	腰高	鯛	鯛汁	算木大根	焼とうふ	めうと	尺御箸	鯛小串	里芋
-----	---	-----	-----	-----	----	------	----	-------	----	--------	-----	-------	----	-----	---	------	----	----	-----	---	-----	----	---	----	------	------	-----	-----	-----	----

安政二年（1855）正月元旦の献立

※赤字部分はプレミアムディナーの参考とした部分です。

■ 真田邸庭園のライトアップ

- ✓ プレミアムディナーに合わせて真田邸庭園をライトアップ。
- ✓ 真田家が生き抜いた戦国時代をコンセプトに、京都村正 村山和正氏が設計。
- ✓ スマートフォンで撮影すると幻想的に映るように機材や配置を研究

【コンセプト】

この地を治めたのは戦国時代を生き抜いた真田家。

武将とは、栄華と誇りを胸に人生をかけて死と隣り合わせの中で生きていた。

一段と明るい右手のエリアは「武将の栄華と誇り」を、左手奥のエリアは「どれだけ栄華を極めても人は老いていく様」を表現。

奥の鳥居は「人の最期はだれしも平等にあの世へ行く」その道を表している。

この照明デザインは、そんな戦国武将の人生を思い描いて作りました。



庭園ライトアップの様子（スマートフォン撮影）

■ 高付加価値英語ガイド付きツアー（ガイド養成・マニュアル作成）

- ✓ 現状の英語ガイドは、一般的な説明に留まっている。
- ✓ 現在英語ガイドを行っているガイドに対し、長野市文化財課の学芸員が指導・研修を行い、文化財の本質的価値を伝える**英語ガイドの養成及びマニュアル作成**。

【ガイドツアー行程例】

真田宝物館（真田家、松代の概要） → 長國寺（御霊屋） → 昼食
→ 真田邸（館内案内） → 樋口家住宅（真田邸との比較）
→ 文武学校（サムライ体験） → プレミアムディナー

※学芸員のレクチャーを受けたガイドにより、真田家と松代エリアに関する基礎知識からよりコアな知識まで、お客様の興味・関心、知識レベルに合わせたガイディングを提供します。



（株）まちノベイトスタッフによる英語ガイドの様子

ガイドツアーの主な史跡等紹介

真田宝物館



真田家伝来の「青江の大太刀」をはじめ、戦国時代の真田家の親子・兄弟の死闘の歴史を伝える古文書、太平の世を謳歌した優雅な大名道具、知識の源である2万冊に及ぶ書籍などが収められています。

これらは全て、真田邸の7つの土蔵に収められていました。

長國寺



真田信之御霊屋（国重要文化財）

長國寺は真田家の菩提寺で、真田家歴代藩主の墓や御霊屋があります。中でも初代・信之の御霊屋は、装飾に富んだ豪華なものであることから、国重要文化財に指定されています。

また8代藩主・幸貫^{ゆきつら}は、藩祖を顕彰し、藩の士気の向上を図るため、初代・信之を「武靖大明神」として崇め奉ったことから、信之の墓には、石の鳥居が加えられています。

旧樋口家住宅（市指定史跡）



樋口家は江戸時代、真田藩士として目付役などを務め、江戸時代末期には禄高230石を持つ上級武士の家でした。

ガイドツアーでは、真田家のような藩主の家族の暮らしと、中・上級武士の暮らしとの比較をまじえながら解説します。

真田邸（国指定史跡）



9代藩主・幸教^{ゆきのり}が、義母のための住居として元治元年（1864）に建てました。廊下の真ん中で、「表—公務に使う空間」と「奥—私的な生活空間」に、分かれていることが特徴です。

真田邸の「表」は大きな空間で、床の間、金の引手、釘隠しの装飾など、豪華な造りとなっています。これは公的な接客の際、他者に対して権威を演出するためであったと考えられています。

一方で、真田邸はもともと女性の住居として建てられたこともあり、「奥」はこじんまりとした落ち着いた雰囲気のある部屋で、優しい雰囲気のススキの絵が描かれた襖や箱庭があり、充実した空間となっています。

※プレミアムディナーは、「表」の中でも年中行事などが行われたメインの部屋「表座敷」でお召し上がりいただきます。



文武学校（国指定史跡）



安政2年（1855）に、学問と武術の学校として開校しました。

8～35歳の幅広い藩士子弟が対象で、各自の自主性に任せて講義や稽古を選択していたことなどから、松代藩の先進的な教育システムがうかがえます。

建設を進めた8代藩主・幸貫^{ゆきつら}は、19世紀後半の欧米列強のアジア進出に備えるべく、海防に力を注ぎ、砲術に非常に熱心でした。当時の松代藩の武器購入・製作関連資料は非常に多く、この文武学校では、砲術訓練も盛んに行われていました。

現在は、映画ロケなどのほか、松代藩の心意気を受け継いだ地元の子供たちによる剣道の稽古場などとしても活用されています。



■ モニターツアー

期 日 令和6年12月18日（水）



■ お披露目会

期 日 令和7年1月31日（金）

